

「全鍍連」 2018年4月号 理事長のよこがお

兵庫県鍍金工業組合 理事長 高橋 宏忠(オリエンタル鍍金(株) 代表取締役社長)

「腰痛から解放された喜び」



平成28年度から、藤井前理事長の後任として兵庫県鍍金工業組合の理事長を仰せつかっております。理事長を拝命してから丸二年が経とうとしておりますが、その内1年近くは理事長としての職責が果たせず、組合員の皆様方には多大なご迷惑をお掛けしてしまいました。

実は、二十年来腰痛に悩んでおり、特にここ数年は腰の痛みで歩くのも儘ならず、特に唯一の趣味であるゴルフも痛みで思うようにクラブも振れず、散々なゴルフを繰り返しておりました。(元々上手くはないのですが。)

6年ぐらい前になりますでしょうか、痛みに耐え兼ねて病院でMRI、CT、レントゲンを撮っての診断結果は、脊柱管狭窄症、すべり症、腰の関節水腫、この3つの病状を抱えておりました。手術も視野に入れて神戸の某病院に入院をしたのですが、そこで執刀する筈の整形外科部長の最終的判断は、「手術をするにはリスクが大き過ぎる、薬の投与で痛みをコントロールしていきましょう。」でした。その時は腰関節にブロック注射を4本打って2週間で退院してきました。手術をせずに済んでほっとした気持ちと、この痛みを抱えたまま生活していかないといけないのかと思う複雑な気持ちで、医者から処方された痛み止め薬を朝晩飲み、ゴルフの前日は座薬を入れ、ゴルフから帰ってきたらまた座薬を入れる生活が数年続きました。

週に一度ブロック注射を打つ為に通院もしておりました。

いつまでもこのような状態を続けていても良いものかと悩んでおりました矢先、日頃よりたいへんお世話になっております知人の方から、脊柱脊髓の先端の手術方法をアメリカでその技術習得をされた先生が大阪の某病院にいらっしゃるので診察を受けてみられたら如何ですかと勧められ、藁にも縋る思いでその先生の診察を受けたところ、先生から帰ってきた言葉は、何の躊躇もなく手術をしましよと即断即決でした。手術が決まったのが一昨年(2016年)の11月で、手術を受けたのが昨年(2017年)の5月。半年間待ちました。

此の度、私が受けた手術方法は、低侵襲脊柱固定術(XLIF)というものです。

これは米国で確立された技法で、日本から複数名の整形外科医が米国に渡り、XLIF専用の手術

研修を受けて認定医となられた先生のおひとりに執刀して頂きました。

この手術方法は、従来の手術のように脊髄を傷つけるリスクも無く、出血もごく僅か(私の場合は 50 cc程度だったようです)で済み、背部に 4~5cm の切開が 2カ所、側腹部にも 4~5cm の切開が 1カ所あるだけで体に掛かる負担が非常に少ない手術方法でした。

無事手術も終え、永年悩まされ続けてきた病状に因る腰痛からもすっかり解放され、本当に思い切って手術に踏み切って良かったとつくづく感じましたし、このような素晴らしい技術を持ったドクターに巡り会わせて頂いた知人の方に心から感謝を致しております。

術後 4 か月間は、胸から腰に掛けてのコルセットの着用を余儀なくされ、夏場の暑い時期は、コルセットの重みと蒸れる様な暑さで苦しい事もありましたし、手術で切開した箇所の痛みも数か月続きました。

ドクターからは、術後 1 年間はゴルフ禁止と言われておりましたが、昨年末の検診では、そろそろゴルフを始めても大丈夫ですと言って頂けました。恐る恐るクラブを振ってみたところ、スイングにぎこちなさはあるものの、腰に全くの痛みが無いのには自身も驚きましたし、ゴルフが出来る喜びを感じました。

腰痛から解放された今、理事長として今日まで、らしい仕事も出来ずに 2 年間を費やして参りましたが、今後は組合運営に微力ながら尽力して参りたいと考えております。